

令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について
～ 滝川市立小学校、中学校の体力の状況等～

滝川市教育委員会

1 調査の概要

(1) 実施期間

令和6年4月から7月末まで

(2) 調査の対象学年（悉皆調査）

小学校第5学年、中学校第2学年の全児童生徒

(3) 調査の内容

児童生徒に対する調査

ア 実技に関する調査

(ア) 小学校の調査種目

[8 種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

(イ) 中学校の調査種目

[8 種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走 / 20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ

(持久走か20mシャトルランのどちらかの選択が原則だが、両方実施した生徒もいる。)

イ 運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

学校に対する児童生徒の体力向上に係る取組等に関する質問紙調査

(4) 参加状況 小学校6校 中学校3校

(5) 調査対象児童生徒数

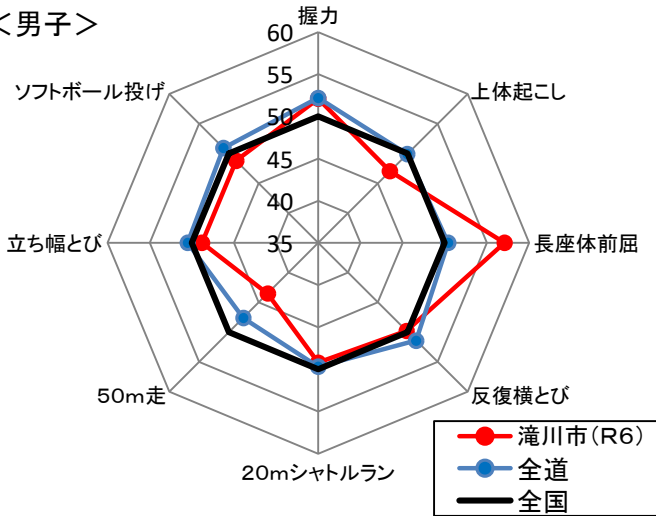
小学校第5学年	学 校 名	対象児童数	中学校第2学年	学 校 名	対象生徒数
	滝川第一小	36		江陵中	76
	滝川第二小	49		明苑中	125
	滝川第三小	57		開西中	50
	西小	30			
	江部乙小	10			
	東小	70			
	計	252		計	251

2 滝川市立小学校の状況及び体力向上策（学校数：6校、児童数：252名）

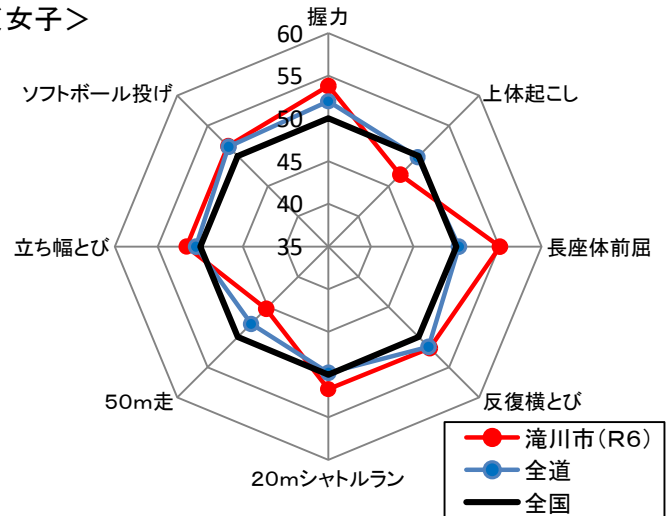
【各種目の状況】

全国を50とした時の偏差値(T得点)をレーダーチャートで表示

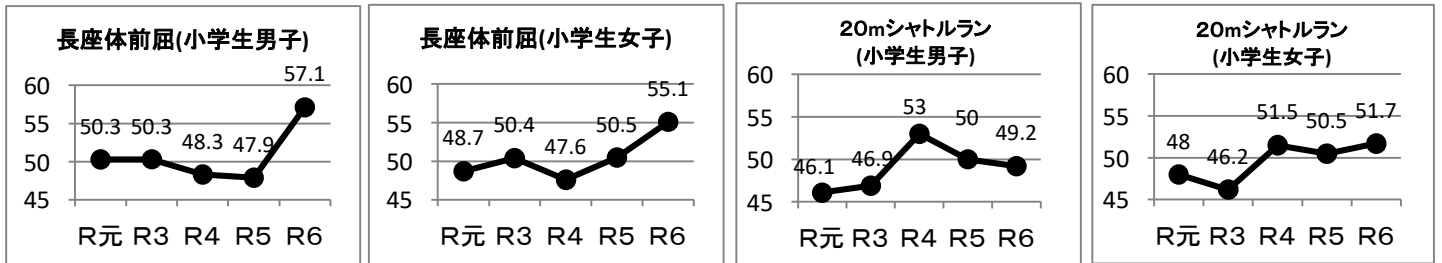
<男子>



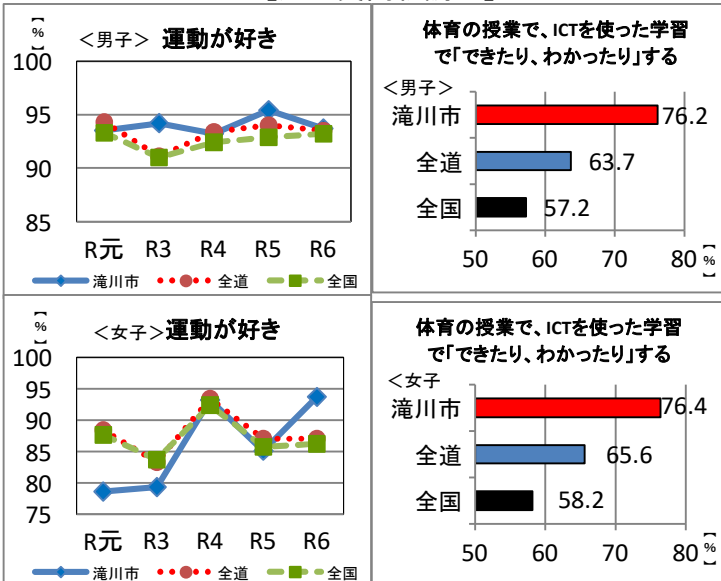
<女子>



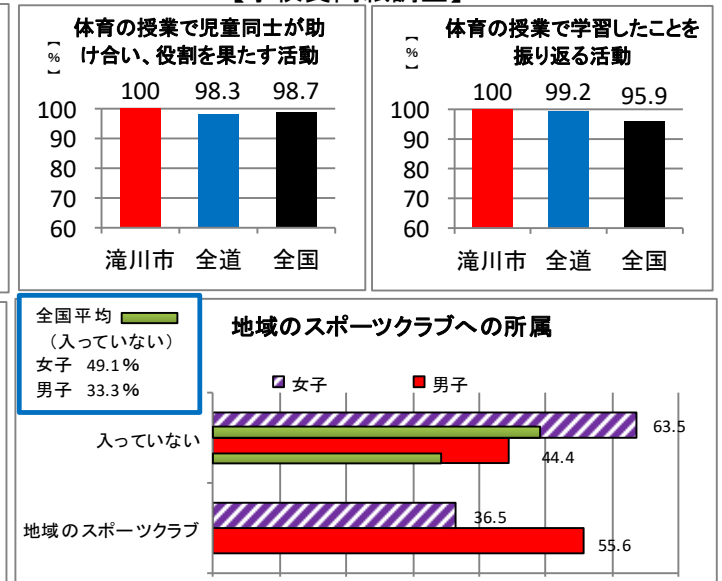
【経年変化(T得点)】 ※令和2年度は中止



【児童質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

実 技	○ 男子の「握力」「長座体前屈」、女子の「握力」「長座体前屈」「反復横とび」「20mシャトルラン」「立ち幅とび」「ソフトボール投げ」は全国平均を上回っており、女子は「体力合計点」で全国を上回った。経年変化を見ると、男女ともに「長座体前屈」に大きな伸びが見られ、女子の「20mシャトルラン」も伸びている。 ○ 「上体起こし」「50m走」は、令和元年から、男女ともに全国・全道平均に及んでおらず、苦手としている傾向が見られる。
児童質問紙	○ 「運動が好き」と回答した生徒の割合は、女子は昨年度より大きく伸びており、男子も高い割合で推移している。体育エキスパート教員を中心とした運動に魅力を感じさせる授業づくりが市内で広がっていると考えられる。 ○ 「体育の授業で、ICTを使った学習で『できたり、わかったり』する」と回答した児童の割合は、男女ともに全国平均を大きく上回っている。体育の授業において、学習者用端末を効果的に活用した個別最適な学びに向けた授業改善が行われていることが要因と考えられる。 ○ スポーツクラブに所属していない児童は、男女ともに全国比べて多く、体育の授業以外の運動やスポーツの機会が不足していることが考えられる。
学校質問紙	○ 前年度、全ての小学校において、体育授業では児童同士で助け合い、役割を果たす活動を取り入れるとともに、学習したことを振り返る活動を行っている。

【滝川市の体力向上策】

- ◎ 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果を踏まえ、T得点が50(全国平均)を下回る種目に重点を置いた体力向上の取組の推進(授業改善、環境整備)
- ◎ 滝川市教育振興会による体力向上事業の継続実施並びに「スピード」や「全身持久力」を向上させる運動に焦点をあてた取組の推進
- ◎ 滝川市スポーツ協会及び各種団体によるスポーツ大会等の開催に係る支援
- ◎ アダプテッドスポーツの出前授業の継続実施
- ◎ 体育エキスパート教員活用事業による体育エキスパート教諭の取組の水平展開(公開授業の実施や巡回・訪問指導による市内小・中学校への成果の普及)
- ◎ 社会教育活動との連携による運動の機会の創出(外部講師を活用した陸上指導等)

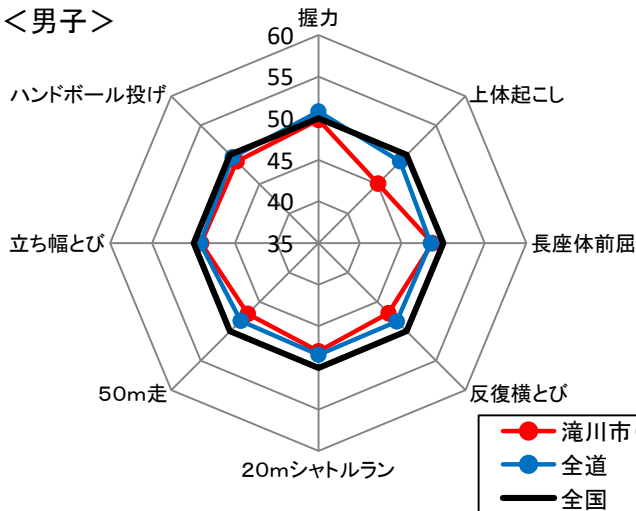
3 滝川市立中学校の状況及び体力向上策（学校数：3校、生徒数：251名）

【各種目の状況】

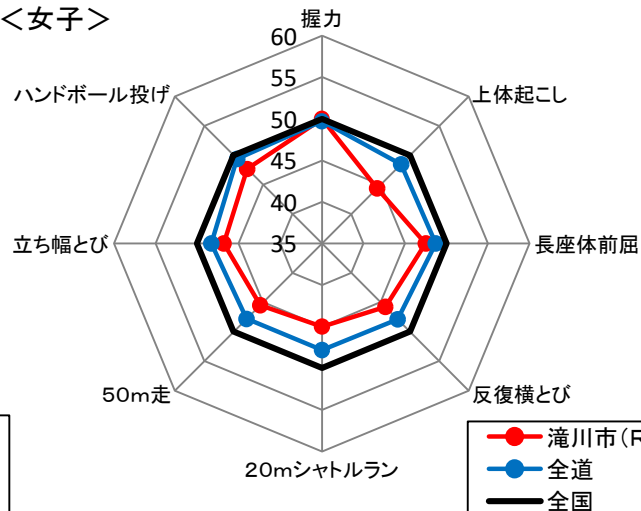
全国を50とした時の偏差値(T得点)をレーダーチャートで表示

全身持久力の評価として持久走については、一部の生徒のみの実施のため省略し、20mシャトルランのみを表示(持久走か20mシャトルランのどちらかを選択可能)

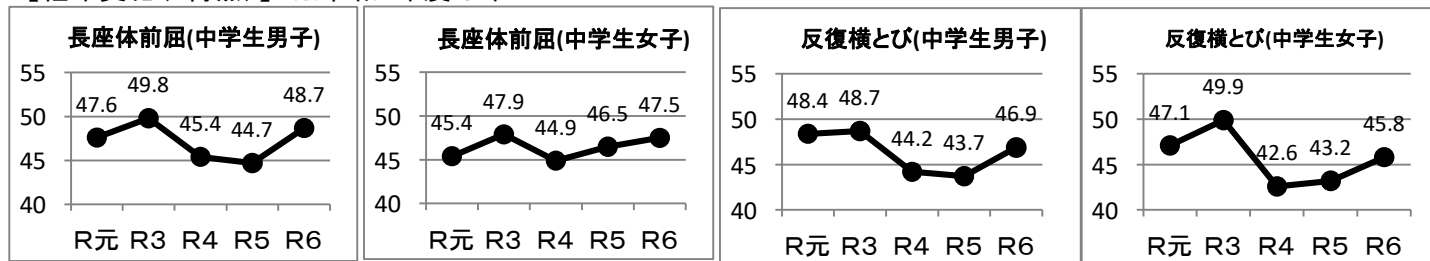
<男子>



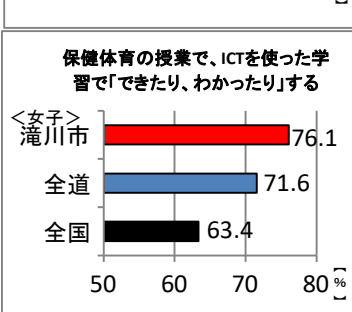
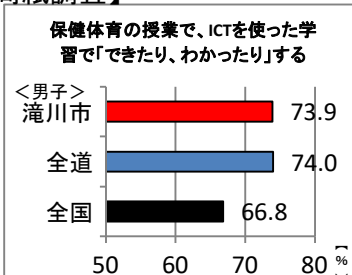
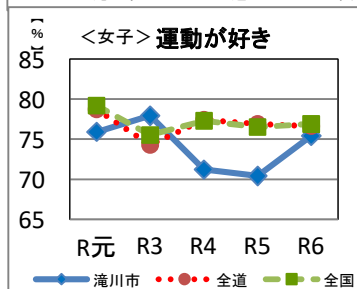
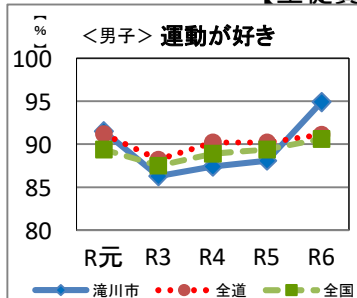
<女子>



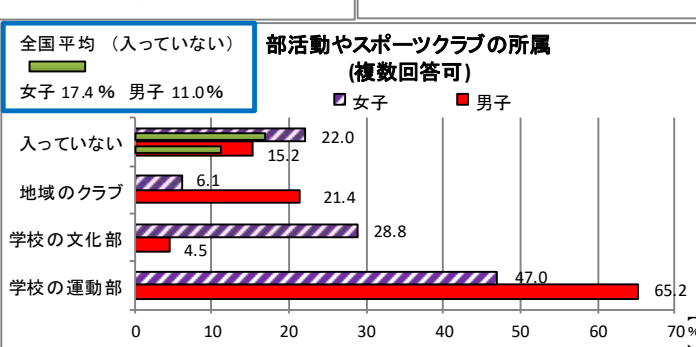
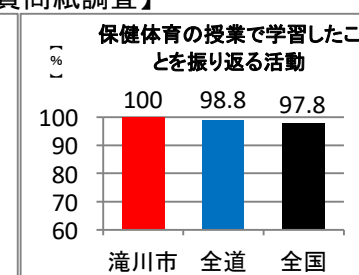
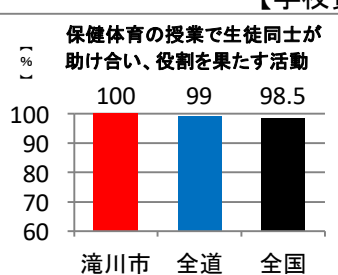
【経年変化(T得点)】※令和2年度は中止



【生徒質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

実 技	○ 男子の「握力」「長座体前屈」「20mシャトルラン」「立ち幅とび」、女子の「握力」は全国平均との差は2P以内と僅差となっている。男女ともに「上体起こし」において、全国との差が最も大きい。 ○ 経年で見ると、「長座体前屈」「反復横とび」に改善傾向が見られるものの、令和元年から、男女ともに全国平均には及んでいない。
生徒質問紙	○ 「運動が好き」と回答した生徒の割合は、男子において令和3年度から増加しており、女子も昨年度より伸びている。体育エキスパート教員を中心とした運動に魅力を感じさせる授業づくりが市内で広がっていると考えられる。 ○ 「体育の授業で、ICTを使った学習で「できたり、わかったり」する」と回答した生徒の割合は、男女ともに全国平均を大きく上回っている。体育の授業において、学習者用端末を効果的に活用した個別最適な学びに向けた授業改善が行われていることが要因と考えられる。 ○ 部活やクラブに入っていない生徒は、男女ともに全国比べて多く、文化部の女子も多いことから、運動やスポーツの機会が不足していると考えられる。
学校質問紙	○ 前年度、全ての中学校において、体育授業では生徒同士で助け合い、役割を果たす活動を取り入れるとともに、学習したことを振り返る活動を行っている。

【滝川市の体力向上策】

- ◎ 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果を踏まえ、T得点が50(全国平均)を下回る種目に重点を置いた体力向上の取組の推進(授業改善、環境整備)
- ◎ 滝川市教育振興会による体力向上事業の継続実施並びに「スピード」や「全身持久力」を向上させる運動に焦点を当てた取組の推進
- ◎ 滝川市スポーツ協会及び各種団体によるスポーツ大会等の開催に係る支援
- ◎ 体育エキスパート教員活用事業による体育エキスパート教諭の取組の水平展開(公開授業の実施や巡回・訪問指導による市内小・中学校への成果の普及)
- ◎ 社会教育活動との連携による運動の機会の創出(外部講師を活用した陸上指導等)